

なんて！」

おばさんたちは、母さんを抱きしめて、ブランケットを手わたした。色とりどりの小さな布がたくさん編みこんであった。

「このブランケット、クリスマスマスプレゼントにするつもりだったのよ」おばさんたちは、かすれた声でいった。「布の一枚一枚に、ジェミーラ、あなたとご主人と、いいお子さんたちへの、友情とまごころをこめてあるわ。つらいとき、このブランケットが、あなたたちをあたためてくれますように」

姉さんは、口紅とマニキュアの入った化粧ポーチを、アーサンは、人体についての本をもらった。シエンデルとイエバートは、それぞれ、サッカーボールをもらった。父さんも本をもらった。マクシム・ゴリキーの「わたしの子ども時代」っていう本だ。

「ロシアの古典文学、好きだったでしょう？」ヘルガおばさんがいった。

ぼくは、ぴかぴかの真新しいサッカーシューズをもらった。こういうのが、ずっとほしかったんだ。



第5章

すべてを狂わせた戦争